みことばを生きる

変装して近づく祝福

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。
わたしがあなたがたを休ませてあげます。」－マタイの福音11:28－

信徒牧師科　**赤井 克成**

アメリカの格言に「変装して近づく祝福」というのがあります。最悪の展開だと思われた状況が、実は素晴らしい結果を招くのです。皆さんの信仰告白はスムーズに進みましたか。僕は違います。イエス・キリストを知り、これ以外に逃げ道がなくなったのです。「本当はすべての責任を自分で負いたかった。残念ですがそれは不可能でした。ですから、僕はイエス・キリストを救い主として受け入れます」といった感じです。ちなみに以前の僕は、すべての信仰者に対して、「あいつらアホや。神なんかいないのに大切なお金をプレゼントするなんて頭おかしい」と思っていました。では、その後、僕はどのように変わったのでしょう。

●商売破たん、自殺サイト徘徊

僕は自営で商売をしていましたが大きなミスを犯しました。そのミスは通常ありえないものであり、100％僕の過失です。何の解決策も出せない状況が1年近く過ぎた時に、最後は好きに生きて死のうと決断しました。まず病気の薬を飲まないようにしました。健康に対する関心が0なので当然です。死ぬ予定ですから、借金は恐くありません。最後は旨いものを沢山食べて、恐怖心を無くす為に遊ぼうと。さっそく価格を気にせず、好きなものを食べましたが美味しくないんですよ。死ぬ事が予定されている場合、どんな娯楽や食事も楽しめません。でも生きる退路を断つ役割は果たせたと思います。その後、僕を苦しめたのは自殺に対する恐怖でした。この恐怖心を解決する為に、自殺サイトを徘徊しました。僕は1週間程ぶっ通しで徘徊していたと思います。不眠症になりながら、「楽に苦しまず確実」な自殺方法を検索しますが、満足できる回答は何もありません。

●気づけば教会動画が……

どこをどう辿ったのかは分かりませんが、気付いたらキリスト教動画にたどりいていました。とても癒されたのです。本当に疲れてたんです。その動画のキリスト教会を探しました。なんと僕の自宅からバイクで15分くらいでした。そしてその教会へ行ってみました。すると、信仰上の様々な疑問が解決し、徐々に自殺願望が消えていきました。最後の関門は自分自身の許せない罪の数々です。「僕の罪の為にイエス様が死ぬなんて、許せない。全ての責任を取るのは僕だ」と。日本はサムライの国であり、潔く自分の罪や責任を受け入れる事が日本人の美学だと思っていた。それをイエス様は許しません。最後は教会の責任者から「どう思おうと好きにしたら良いけど既にあなたの罪の為にイエス様は死んだ後です。無駄死になるね」と。

●御言葉による一人だけの信仰告白

全ての責任を負って自殺を選ぶ選択肢のはずだったのに、全然責任を負っていない事に気づき、自殺をする気もなくなり、そして信仰に導かれた。「僕はもう死ねないし、イエス様の無駄死にも嫌だ」と。コーナーに追い詰められた僕は、冒頭の信仰告白を迎えます。救われた御言葉はマタイの福音11章28節。場所は自宅でひとりだけの信仰告白でした。

昨今ではコロナ禍やウクライナ紛争等悲しい事件も多いですが、もしかしたらそれは「変装して近づく祝福」かもしれません。主を賛美し十字架と復活の贖いに感謝します。ハレルヤ。

まあるい地球からのHOT便 40

台湾での恵み

台湾　台湾基督長老教会・中山教会　**知苑 正人**

「平安(peng-an)」！(主の平安が共にありますように！)

台湾の教会で一番よく使われるあいさつのことばです。皆さん、初めまして。私は今、海外赴任で台北に来て7年目になります。台湾はみなさんには馴染み深い国と思いますが、まずは東日本大震災の際、台湾の民間から多額の支援金が日本に寄せられたことは知られるところであり、更に美味しい食べ物と人情味に溢れ、そして何よりも親日的で、海外日本人駐在員には圧倒的に人気の高い国です。

多様な教会活動と伝道

しかし、台湾に来て私がもう一つ、すばらしいと思ったのは活発な教会活動とその成長です（クリスチャン人口は6～7％ですが、台北に至っては10％と言われています）。実は、私は台湾の出身で宣教師である父の仕事で来日46年になりますが、台湾では父の出身教団である台湾基督長老教会に通っています。そこでは毎朝の公園での讃美体操（大勢集まります！）や教会での楽しい様々なシニア活動、児童・女声合唱団など地域や各層の人たちを対象にした宣教があり、そして、「弟子訓練」による信徒の弟子づくりと「セルグループ」による交わりの深化とグループ宣教によって、次から次と救われる人が起こされ、主の栄光が顕わされています。教会や各層、各地域でのセルグループでは、分かち合いと祈り合いの充実とともに、メンバーの生活面での様々な必要にも関心を向け、助け合うことによってまさに愛の実践の場となっています。

JTJ入学と将来の宣教ビジョン

私自身は13才で受洗、そしてKGKの学内伝道の経験や教会役員も務めましたが、来台以降、台湾での弟子訓練によって、もう一度自分自身が深く取り扱われ、伝道する意欲と勇気が湧き、人を愛する力を与えられたことを体験しました。実に不思議な主の導きと聖霊の満たしです。そして、このことが私のＪＴＪ宣教神学校の入学、牧師志願の動機となりました。今、帰国後に備えて、日本の社会においての人々のたましいの渇きに、特に台湾人や中国人を対象にした宣教に携わりたいと願わされております。どのように宣教できるかはわかりませんが、信徒の弟子づくり、交わりと祈り合いの充実、そして、一人ではないグループによる求道者への伝道が大事だと思います。如何に日本の社会や文化に、そして在日台湾人や中国人に合った宣教のスタイルは何かを模索し、祈っています。最後に、今回、海外でＪＴＪの学びができることは、本当に有り難いものであり、大きな感謝であることを改めて思う次第であります。

妻と共に

教会のセルグループにて

卒業生は今

「見よ。わたしは新しい事をする。」

また、彼らにこう命じられた。「旅のためには、杖一本のほかは、何も持って行ってはいけません。パンも、袋も、胴巻に金も持って行ってはいけません。くつは、はきなさい。しかし二枚の下着を着てはいけません。」 －マルコの福音書6章8・9節－

秦野いずみのほとりキリスト教会 牧師　**黒澤 和義**

岸先生が以前発行されていた「ぽぽ」に掲載して頂きましたが、私の救いの証しは、言い表すのも苦しい、人が人生において一度経験するかどうかの事が立て続けに起きたのがきっかけでした。

しかし、それがキリスト教とは正反対の生き方をしていた私を、イエス様に導く事になったのです。

私は救われてまもなく召命を受けましたが、自分にその資格があるのか？　当時、家庭は崩壊し中学生の娘と二人暮らし、私は両足に難病を患い大きな手術を控え、経済的に困窮し生活もままならず、居住地も東京への通学は不可能な場所です。ただ召命感がつのるばかりでした。

そんな時、複数のルートからＪＴＪ宣教神学校の学校案内が与えられ通信制の牧師志願科へ入学する事になりました。

しかし、そのような状況だった私が神学校に入学する事など、常識では考えられません。けれども、母教会の方々のお祈りに支えられ、そして不思議な主の御業もあり、卒業する事が出来ました。

とは言え、これからどうしたら良いのか、人の目には全く先が見えません。転居してすぐに様々な事が起きたので、土地勘も、知り合いも、経済的な余裕もありませんでした。

・クリスマスイブ礼拝にて・

しかし、再婚した妻と、株分けではないゼロからの開拓伝道に遣わされたのです。

冒頭のみことばは私が召命を受けたものです。私の中に明確にあり、私がすがることが出来たのはこのみことばだけでした。

しかし、主は真実なお方です。当然、様々な困難もありましたが、その都度まるで主が「共にいる、そのまま歩め」と仰っているがごとく新たな所へ導いてくださいました。

当時小学生になったばかりの息子は「教会って不思議な所。だって、来た時には暗い顔をしていてもみんな帰りには笑顔で帰るから」と言い、多くの人が集いだし、子どもたちの笑い声も多くなって来たのですが、そこに新型コロナがやって来ました。

しかし、今は教会に集まる人たちと、Zoomのハイブリッドで交わりを持ちながら、また録画でも礼拝を捧げています。その結果、教会に集えなくなってしまった方々や海外の方々も一緒に礼拝を捧げる事が出来ています。

「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」

（イザヤ書43章19節）

・妻と共に・